

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助演習Ⅲ Social Work Seminar Ⅲ		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(社会福祉士国家資格取得のための必修科目)	社会福祉フィールド以外、履修不可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会福祉士国家資格取得に必要な科目や社会福祉学に関連する科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士国家資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大熊 信成	福祉棟3F	火・水・木・金の9時から16時（授業時間を除く）		授業中に指示します
授業の概要				
相談援助演習Ⅰ・Ⅱで学んだ個人を対象とする基本的なコミュニケーション技術の習得を踏まえ、個人や集団を対象とした基本的な面接技術の習得する。				
授業の目標				
①利用者主体の援助および利用者理解について事例を通して検討・考察することをできるようにする。 ②相談援助場面における基本的な面接技術の習得と、自分自身を振り返る力を涵養することをできるようにする。 ③プレゼンテーションに際し、創意・工夫をできるようにする。				
授業の方法				
演習形式で行う。必要に応じて小テストを実施する。 社会的排除、虐待、家庭内暴力等に関する事例研究とグループディスカッションを実施する。また面接技術習得のためのロールプレイングも行う。				
学習の成果（学習成果）				
①相談援助場面で利用者理解を深める基本的な面接技術を身につけることができる。 ②利用者主体の援助のために相談援助専門職としての課題を検討することができる。 ③検討したことを他者に伝える能力を養い、また相互交流によって多面的に学ぶことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業の進め方、留意事項、成績評価等） 相談援助演習Ⅱの振り返り			
第2回目	事例研究：児童虐待の被害者に対する支援（1） インテーク、アセスメント、プランニング			
第3回目	事例研究：児童虐待の被害者に対する支援（2） 介入、モニタリング、終結とアフターケア			
第4回目	事例研究：低所得者に対する支援 インテークから終結まで			
第5回目	事例研究：社会的排除された人への支援（1） インテーク、アセスメント、プランニング			
第6回目	事例研究：社会的排除された人への支援（2） 介入、モニタリング、終結とアフターケア レポート「相談援助のプロセスについて」提出は第7回の授業日			

第7回目	利用者理解モデルとエンパワーメント
第8回目	事例研究：ドメスティックバイオレンスの被害者に対する支援（1） インテーク、アセスメント、プランニング
第9回目	事例研究：ドメスティックバイオレンスの被害者に対する支援（2） 介入、モニタリング、終結とアフターケア
第10回目	事例研究：アウトリーチを要する危機状態の利用者への支援
第11回目	事例研究：接近困難な事例（1） 多動や他害行動における発達障害児への事例
第12回目	事例研究：接近困難な事例（2） 知的障害児における思春期へのアプローチ
第13回目	効果測定と関わりの振り返り
第14回目	社会資源の活用・調整・開発
第15回目	授業のまとめ 利用者主体の援助のための面接技術について

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。これらを総合的に判断する。
レポート	30%	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価であるSは意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	40%	自分の担当箇所に責任を持つこと。テーマについてレジュメを作成し、根拠(エビデンス)に基づき発表すること。
その他		

教科書と参考図書

福祉臨床シリーズ編集委員会編 『相談援助演習』 弘文堂 他 授業中に指示し、資料を配布します。

履修上の留意点・ルール

一部視聴覚教材を使用し、内容をレポートで確認する。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。